

令和7年度海蔵幼稚園は幼稚園型認定こども園に移行



令和7年4月1日から、海蔵幼稚園は「**幼稚園型認定こども園**」に移行します。令和6年8月1日には、その移行にかかる説明会が海蔵幼稚園で実施されました。関心度が高く、参加者は41名でした。

認定こども園とは、幼稚園と保育園のそれぞれのよいところを生かしながら、その両方の役割を果たすことのできる施設のことをいいます。現在、四日市市内には、教育施設（幼稚園）と児童福祉施設（保育園）とを単一施設として、新たに認可を受けたタイプの「**幼保連携型認定こども園**」が22園（公立10園私立12園）あります。また、認可を受けた幼稚園に保育機能を追加するタイプの「**幼稚園型認定こども園**」が1園（私立1園）あります。

令和7年度は公立幼稚園6園（海蔵・羽津・泊山・内部・常磐中央・笹川中央）が「**幼稚園型認定こども園**」となります。



海蔵幼稚園は、「**幼稚園型認定こども園 海蔵幼稚園**」という名称となり、現在の4・5歳児クラスに加え、3歳児クラスの教育・保育を始めます。土曜保育、夏休み保育も実施され、食缶方式で外部搬入によるデリバリー給食が週6日提供されます。



市長との地域づくり懇談会



令和6年度は、「市総合計画 [2020(令和2)年度～2029(令和11)年度] の中間見直し」をテーマとして市内24地区において開催されました。海蔵地区では8月3日に地区市民センターにおいて、市長と関係部局職員の出席のもと、海蔵地区まちづくり協議会委員や自治会長が参加し、同協議会で推薦された4名の方が提案・意見を述べました。



◎《子育て・教育施策》 海蔵地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 上野尚子さん

不登校やいじめ等の問題に対応するため、学校にはスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーの3種の専門職種を配置してもらっていますが、関係する民生委員児童委員等との連携のためにも、それぞれの役割についてしっかりした周知が必要です。また、本年度から山手中学校に校内ふれあい教室「ひだまり」ができて画期的なことですが、登校できない生徒もいます。積極的に訪問する不登校対応の職員配置を考えて欲しいです。

◎《子育て・教育施策》 海蔵幼稚園PTA 副会長 吉澤里奈さん

海蔵幼稚園は令和7年度から3歳児から5歳児が過ごす幼稚園型認定こども園となります。子どもを安心して預けることができ、子どもが安全に安心して過ごせ、喜んで通園できることが私たちの願いであり、外周フェンスの老朽化や高さ不足など園の施設はもとより、園の周辺も合わせた危険箇所の改善整備をお願いします。

◎《高齢者施策》 海蔵地区連合若生会 会長 今村敏明さん

高齢化社会が進む中、高齢者の交通手段の確保は喫緊の課題となっています。本市では市街化調整区域で駅やバス停から一定距離に居住する満70歳以上の高齢者を対象としたデマンドタクシー制度（タクシー料金の割引）があります。しかし、老人クラブのイベントが公共交通機関で行き難い四日市ドーム等で行われることもあり、海蔵地区を含めた市街化区域の高齢者も利用できる制度への見直しを望みます。

◎《災害時施策》 海蔵地区連合自治会 会長 羽場誓司さん

高齢者や障がい者を対象とした災害時の避難行動要支援者制度がありますが、地域の自主防災隊や自治会が把握しているのは情報提供の同意書を提出した要支援者のみで、それ以外の人は分かりません。災害時の地域での支援に実効性のある制度となるよう見直しが必要と考えます。

各提案・意見を受けて、市長からは現在の取り組み状況の説明と今後の改善について検討する等の表明がありました。